

令和3年6月24日

## 6月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産、各共販所への入荷ともに順調。4月中旬以降元落ちはなく、5月も完売が続いている。スギ柱材は5月の3回目の共販では平均単価で5,000円程度の値下がりとなり、弱保合に転じた。ヒノキ材は土台取りをはじめ全般に強保合で推移している。間伐材・小径木も順調な荷動きであるが、価格は弱保合。

群馬でも原木入荷は順調だが、原木価格の値上がりが続いている。虫害が出始めたので注意して集荷している。フル操業で忙しい状況にある。受注や問い合わせが異常で納期回答ができず見積もりも不可能。納期未定の受注残も大量にある。製品の余剰在庫は皆無で小売用の自社在庫もない。製品価格の上昇と需要過多で値段を決めかねる状況である。とくに柱、間柱は異常な高値で取引されている。

### 2. 米材

カナダ・米国とも好天が続き、原木の出材は順調だが、カナダ州有林の第3・四半期の立木価格がC\$25/m<sup>3</sup>程度上昇する見込みで、伐採業者の意欲が萎縮し、今後の原木供給減が懸念される。港頭在庫は低水準が続いているが、輸出需要に見合う供給は行われている。米マツ IS 級並の対日輸出価格(推定)は3月から連続で上昇したが、6月は据え置きの\$1,050になった模様。海上運賃はリーマンショック後の最高値を更新中である。一方、米国の製材品価格は5月最終週に8週ぶりに反落し、6月第1週も大幅続落したものの高値圏を推移。製材需要が堅調なため一本調子の下落は想定し難いだろう。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(5/28)は\$1,494/Mとなり、5月頭に比べ5.7%の上昇。第3・四半期の日本向け製材品価格も\$400~\$500/m<sup>3</sup>の値上がりとなった。

4月原木入荷は223千m<sup>3</sup>と2ヵ月連続の200千m<sup>3</sup>台となり、1~4月累計で769千m<sup>3</sup>(前年同期比16.1%増)、カナダからの入荷は前年同期比169.1%増。出荷は238千m<sup>3</sup>、1~4月累計は780千m<sup>3</sup>(同18.5%増)。在庫は減少し133千m<sup>3</sup>、在庫率は0.73ヵ月で1ヵ月を切った状態が続いている。東京木材埠頭の5月入荷は17千m<sup>3</sup>(前月比6.0%増)、出荷は17千m<sup>3</sup>(同4.5%減)、在庫は25千m<sup>3</sup>(同1.1%増)。国内米材製材最大手は産地価格の上昇、海上運賃の急騰に

より3月から4ヵ月連続の値上げを表明した。

### 3. 南洋材

全マレーシアで6/1より2週間のロックダウン措置が発出され、半島マレーシアでは木材製品の輸出もストップされた模様。しかしサラワク州では木材産業はEssential Serviceのカテゴリーに入るため、原木生産、製品加工、運搬、輸出が特別に認められている。サラワク州の原木マーケットは静かながらもFOB価格は高値で膠着状態。PNGでは中国、台湾、韓国、ベトナム等からの引き合いが増え、FOB価格は大幅に上昇している。マレーシア、インドネシアからのコンテナ不足は依然解消されず運賃は上昇中。6月予想の原木入荷は8千 $\text{m}^3$ 、出荷5千 $\text{m}^3$ 、在庫10千 $\text{m}^3$ 。製材品入荷は32千 $\text{m}^3$ 。

### 4. 北洋材

産地では冬山伐採が終了し夏山伐採に移行しており、対日主力工場への新規原木の搬入は減少している。4月末に中国の買付はトーンダウンしたが、5月から再度復活。原木入荷減と中国からの引き合い再開で産地製品価格はさらに強含み。アカマツ原板は\$650/ $\text{m}^3$ を超えてくるだろう。過去の割安な契約を履行しないシッパーも出ており、原板調達に苦勞している。現地挽きアカマツ野縁製品は\$800/ $\text{m}^3$ 以上、商社コストで100,000円/ $\text{m}^3$ に達する。オフア数量は回復せず、この状態が11月まで続くのは確実だろう。国内製材工場では原板確保に奔走、採算度外視で高値でも買わざるを得ない状況。受注は一般、DIYルートとも引き続き順調である。現地挽きアカマツ野縁製品の流通玉はなく、先行き入荷回復の兆しは見られない。国内挽き完成品も各社とも原板在庫、受注残が薄くなっており、末端ユーザーに供給できないメーカーも散見される。6月予想の原木入荷は2千 $\text{m}^3$ 、製品入荷(東京+川崎)15千 $\text{m}^3$ 、出荷15千 $\text{m}^3$ 、在庫23千 $\text{m}^3$ 。

### 5. 合板

合板用原木の国産材は不足感が強く価格も強含み。ロシア材は日本向けオフアが少なく強含み。米材は国内・中国向けの引き合いが非常に強く、高値張り付き状態。南洋材は強含みで大きな変化はない。

4月の国内合板生産量は26.5万 $\text{m}^3$ 、うち針葉樹合板は25.8万 $\text{m}^3$ 、出荷量は26.8万 $\text{m}^3$ で在庫量は10.4万 $\text{m}^3$ となり、このうち構造用合板の在庫は8.6万 $\text{m}^3$ とかなり少ない水準になっている。針葉樹合板は各メーカー在庫が少ないことに加え、接着剤価格が上がっているため強含みの状態。また納期遅れも多くタイトな状況が続いている。輸入合板は慢性的な品薄感が継続しており、

価格も上げの姿勢は止まっていない。4月の合板輸入量は21.4万 $\text{m}^3$ となり、マレーシア、インドネシア産は前月より減少し、中国、ベトナム産が増加する形となった。インドネシアでは各工場の原木不足感が強く、生産量が回復しておらず、価格も強含みが続いている。マレーシアでは原木不足と従業員不足で限定的な生産状態が続いている。

## 6. 構造用集成材

5月ラミナ入荷は通常よりやや少なかった。6月は回復するとの声も聞かれるが、コンテナ不足の問題は継続している。ラミナ価格の第2・四半期交渉では350ユーロ/ $\text{m}^3$ の過去最高値を記録したが、これからの第3・四半期交渉では500ユーロ/ $\text{m}^3$ 超えが予想される。ラミナ価格同様、輸入集成材の価格は米材価格高騰の影響を受け、管柱・平角とも今後、一気に価格は上昇していく見込みである。

## 7. 木材チップ

チップ原木の入荷は低調だが、製紙・バイオマス用とも引き合いは強い。解体材の発生量は回復基調にあるが、依然タイト感強い。製紙用の国内針葉樹チップ、燃料用チップの使用量は大型定期修理で総使用量が減少しており、在庫量は調整局面に入っている。国内チップ工場では各社とも一服感が見られる。

## 8. 市売問屋

国産材ではスギとヒノキKD材の柱、間柱等の不足が顕著でGR材に変更せざるを得ない。外材では米マツ、米ツガ、WW等の問合わせがあっても材が無い。相場が一人歩きしている感じだ。外材KD材の不足でスギ、ヒノキに樹種変更したが、国内製材所の生産量では不足で、外材入荷が滞る間は値上がりが続くだろう。

## 9. 小売

月を追うごとに状況は悪くなる一方である。毎日のように価格が変わるので集荷・営業担当者ともに苦労の連続である。工務店にも現状は周知されてきた感が強い。スギ柱角、間柱は品薄で価格も上昇。桁角、母屋角も品薄が続いている。ヒノキ土台角、柱角も品薄で入荷毎に値上がっている。米材は値段を出しても物が集まらない。国内挽き米ツガ割物も上級グレードはもちろんのこと1等材も品不足である。欧州材は集成柱、割物ともに入荷状況は悪く影響は大きい。ロシア材も入荷少なく価格も上昇中である。先行き輸入造作材にも影響が出て来る見方から、ある程度の在庫を確保する動きが見られる。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和3年6月24日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	↘
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↘	↘
南洋材	丸太	↘	↘	↘
	製材品	→	↘	↘

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↑
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↑
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	↑
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	↑
ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↑			
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↑			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	↑			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↗
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16'' 13'	↗
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
			メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↗
		アカマツ (KD) 16×40上級	↗	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗